



時間銀行



@me

時間銀行

2158年4月1日 9:05 康介は寝付けない夜を明けて、疲れたように起きた。机のコンソールから、メニューを選び、今日の時間市場相場を確認する。銀河中心のブラックホールが生み出す時間と空間の歪を利用して、光速で移動する銀河間で時間差が生まれ、それが売買されていた。人は時間を購入することで、一生で使える時間を他人より伸ばすことができ、また、貯めた時間を他人に売ることもできた。そうして、時間銀行が生まれ、金融商品の主流は、時間となっていた。

康介は、午前中の時間を1時間伸ばしたかった。昨日の疲れがまだとれず、寝起きが悪かったからだ。

時間を買うのは、簡単だった。時間銀行にアクセスし、相場の値段で欲しい時間を購入するだけだ。時間銀行には口座を持つ人のDNA情報が保管されており、2132年に発明された時空制御装置によって、宇宙のあらゆる空間の特定人物の空間を識別でき、時間を操ることができた。時間銀行は、そうして、銀河のブラックホールが生み出す時間の遅れを買い、通常空間の早い時空で時間を売った。時間銀行にはそうして貯められた135億年分の時間が貯められていた。

「1時間は地球時間で10,500円か。少し時間を買うか。」

康介は時間銀行で1時間を買った。すると康介の身体の周りの空間は外の空間より1時間伸びた。時空時計を見ると、康介の空間と、外の空間の時間の両方がわかる。康介の空間の時計は時を刻むが、外の空間の時は止まったままだった。カウントダウンが「0：59：58」を示していた。

「さて、もう少し寝るか」

康介は、再びベッドに潜り込んだ。

その時、大きな衝撃が康介を襲った。机もベッドも大きな衝撃を受けて中に浮いていた。時空の境目に亀裂が生じたのだ。

「じ、時空地震か？」

こここのところ、時空の境目にたまつた歪が破壊されて、時空地震と呼ばれる現象が続いていた。科学者たちは、なぜ時空地震が起きるのか、メカニズムを解明出来ていなかった。通常の小さな時空地震では、少しの間、時空の境目に亀裂が生じて、通常空間の遅れが目に見えて現れるだけで、しばらくすると、元の時空に戻ったため、大きな被害もなかった。

しかし、今回の時空地震は何かが違っていた。康介は空中を漂いながら、窓の外に目をやった。康介の目に写ったのは、車や人、ビルが一斉に空中に浮かび上がって、波打っていた。

「なんだこれは・・」

この時、時間銀行では、ある遥か彼方の銀河にあるブラックホールの一つが生み出してた時空制御装置に巨大な時空の波が流れこんでくるのを観測していた。ブラックホールの時空が通常空間と変わらないほどの急激な時空の変化が起きていた。通常ブラックホールでは巨大な重力のために、光も逃げられないほど空間が曲がっており、時間の進み方は大幅に遅れているものだが、

この時、「何か」が起きようとしていた。

康介は、街の様子が巨大な時空の波に飲まれてだんだんと変わっていく様子をゆっくり観察していた。

時空観測研究所では、ある異変の兆候を察知していた。それは、宇宙の始まりであるビッグバン直後に生まれた素粒子の一つだった。しかし、科学者たちは、その異変を察知して理解したときには、すでに時空の津波に飲まれていた。

康介のいた銀河は、ほんの数分で、遙か彼方で起こったビッグバンにより完全に崩壊した。

人類が発明した時空制御装置には致命的な欠陥があったのだ。ブラックホールで生まれた時間の遅れを通常空間と交換することで貯めてきた135億年分の時空の歪みが、皮肉にも、135億年前に起きたビックバンを引き起こしたのだった。

康介たちは、素粒子まで一瞬で分解され、そして、灼熱の炎となって溶けていた。やがて、新たに生まれた宇宙は、冷えて新しい銀河を形成していた。

不思議なことに、135億年分の変化は数分で終わった。時間銀行に溜まっていた135億年を一瞬で使い切ったためだった。

2011年4月1日 8:05 康介は、疲れたように目覚めた。

「いっけね～、遅刻だよ！！」

康介は急いで飛び起きて、仕事へと出かけて行った。時計は、正確に時を刻んでいた。